

## 令和2年度第1回北九州区域病床機能連携推進部会 議事概要

## 1 会議の開催日時及び場所

日時：令和2年11月4日（水）19時15分～21時00分

場所：八幡西生涯学習総合センター 大会議室

## 2 出席委員

別紙委員名簿のとおり（出席者：出席委員20名 欠席委員3名）

## 3 議事概要

## （1）部会長の選出について

委員からの推薦により、北九州市医師会の穴井会長が選出された。また、臨時委員として、北九州区域地域医療構想調整会議の委員のうち市町村から選出されている委員を指名し、了承された。

## （2）公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について

まず、事務局から、公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について「参考資料1 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について」に基づき説明を行った。委員から「総合療育センターのような特殊な医療と提供する施設も同様に再検証を行うのか」との質問があり、事務局から「国が一律に機械的な基準で選定を行ったものであり、特殊な医療を提供する施設もその中に含まれるが、国からはそういった施設も再検証を行うよう要請されている。」

また他の委員からは「中間市立病院は、新聞報道で今後民間譲渡するといったようなことを聞いたが、公的な病院でなくなるのに、再検証を行う意味はあるのか」との質問があり、事務局から「後ほど中間市立病院から民間譲渡の内容について説明が行われるが、国に確認したところ、現時点では公立病院であるため、再検証を行うこと」と回答した。

中間市立病院が入室し、「資料1 中間市立病院の公的医療機関等2025プラン」に基づき説明した。

地域医療構想アドバイザーからは、中間市立病院の再編等については調整に困難が予想されることから、厚生労働省から直接アドバイザーを派遣する制度の活用を提案された。

中間市の委員からは、建物の老朽化や耐震化の必要性から病院の建て替えが必要であるが、市立病院の経営状況や市の財政事情からは新病院建設費用の捻出が困難であるため、中間市における医療提供体制を維持し、市立病院が担ってきた医療機能を残す方法として民間譲渡は必要であるとの意見が述べられた。

委員からは、民間移譲する病院について、再編統合というのはいかに考えればいいのかと質問があり、地域医療構想アドバイザーから民間移譲することは再編統合にあたり、再編統合にあたっては基金からの財政的な支援が準備されていることが説明された。

また、他の委員からは、市民からすれば病院が残れば、公立であろうと民間であろうと一番いいと思うが、民間譲渡した後に当初の約束が反故にされてしまわないか不安があるとの意見があった。

協議の結果、中間市立病院のプランでは、民間譲渡の相手先の方針が不明であり、今回の部会で結論

を導くことは困難であることから、中間市立病院の公的医療機関等 2025 プランは、継続協議することとなった。議長から中間市立病院に説明を行い、基金の活用可能性の検討についても指摘し、中間市立病院も了承した。

- 資料 1 中間市立病院の公的医療機関等 2025 プラン  
参考資料 1 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証等について  
別添 平成 30 年度病床機能報告（北九州区域）

<以下、非公開>

---

以上

議事録署名人 \_\_\_\_\_ 印

議事録署名人 \_\_\_\_\_ 印